

第 6 期 雄 武 町 総 合 計 画 後 期 実 施 計 画 書

事業NO,	政策目標	2	安心感の持てる福祉のまち・雄武	保健・医療・福祉の充実	会 計 区 分	一般会計	全体計画（後期実施計画期間外の期間を有する場合のみ）
10010010	基本施策	8	子育て・子育ての充実		事業優先度	A 地域力の向上（活力・生産・協働） のために最優先して行うべき事業	
	単位施策	2	地域ぐるみの子育て支援				
事 業 名	放課後子どもプラン推進事業				担 当 課	児童センター	
事業 期 間	令和5年度～令和9年度		事業主体	雄武町	関 係 課	教育振興課 地域福祉課	
事業 指 標	①開設日数 ②利用者数				数 値 目 標	①年306日 ②年10,000人	

全 体 計 画 事 業 内 容				令和5年度 事業内容		令和6年度 事業内容		令和7年度 事業内容		令和8年度 事業内容		令和9年度 事業内容		
放課後児童健全育成事業 ・行事体験活動 ・クラブ活動 ・異年齢層との交流				行事体験活動 クラブ活動 異年齢層との交流		行事体験活動 クラブ活動 異年齢層との交流		行事体験活動 クラブ活動 異年齢層との交流		行事体験活動 クラブ活動 異年齢層との交流		行事体験活動 クラブ活動 異年齢層との交流		
年度別数値目標				①306日 ②10,000人		①306日 ②10,000人		①306日 ②10,000人		①306日 ②10,000人		①306日 ②10,000人		
		計画事業費	実績事業費	計画事業費	実績事業費	計画事業費	実績事業費	計画事業費	実績事業費	計画事業費	実績事業費	計画事業費	実績事業費	
財 源 内 訳	国庫支出金	14,000	4,712	2,800	2,031	2,800	2,681	2,800		2,800		2,800		
	道支出金	14,000	4,712	2,800	2,031	2,800	2,681	2,800		2,800		2,800		
	地方債	0	0											
	その他	100	7	20	0	20	7	20		20		20		
	一般財源	27,900	11,047	5,580	4,033	5,580	7,014	5,580		5,580		5,580		
合 計 (千円)		56,000	20,478	11,200	8,095	11,200	12,383	11,200	0	11,200	0	11,200	0	
特 定 財 源	地域子ども・子育て支援交付金 雇用保険料		評 価 ・ 実 績	実施内容	放課後児童健全育成事業 ・行事体験活動 ・クラブ活動 ・異年齢層との交流		※簡素化対象事業							
					評価結果		A－継続／現状維持		A－継続／現状維持					

事業名	放課後子どもプラン推進事業	評価者 管理職 職氏名	児童センター館長事務取扱	林崎 光也
		評価者 作成者 職氏名	児童センター係長	田中 健二

令和6年度実施
令和7年度評価

■事務事業の目的・内容（Plan・Do）

誰、何が（対象）		望ましい指標（目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標）	開設日数、利用者数	
抱える課題やニーズ		指標（指標計算式／解説）	目 標 値 及 び 実 績 値	
どのような状態になることを目指したのか （意図）		① 児童クラブ年間開設日数	目 標 年 度	令和6 年度
			目 標 値	306 日
			実 績 値	308 日
			達 成 度	100.7 %
その結果、どのような成果を実現したいか ※成果＝目的		② 児童クラブ年間利用者数	目 標 年 度	令和6 年度
			目 標 値	10,000 人
			実 績 値	9,036 人
			達 成 度	90.4 %
内容（どのような手段で何を行ったか）				

■事務事業の評価（Check）

（1）事務事業の必要性（町民ニーズ、・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性）

	☐	義務的なもの	
必要／概ね必要 ／課題あり	☐	全部	
	☐	一部	

（2）事務事業の有効性（期待する効果が得られたか）

	設定した目標値の達成状況	
	☐ 達成	
有効／概ね有効 ／課題あり	☐ ほぼ達成	
	☐ 下回る	

（3）事務事業の効率性（コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか）

	判断の理由	
	☐ 事業費抑制	
	☐ 人員削減	
効率的／概ね効率的 ／課題あり	☐ 時間短縮・作業軽減	
	☐ その他	

（4）事務事業の公平性

	判断の理由	
	☐ 受益者負担がある	
	☐ 受益者負担がない	
公平／概ね公平 ／公平でない	☐ 受益が一部に偏る	
	☐ その他	

■その他特記事項（アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入）

■総合評価【A～D】

A：計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
B：ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
C：当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
D：事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
A		

今後の展開方向 （Action）			
継続／現状維持			

※展開方向の区分
○継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
○終了 ○休止 ○廃止

第 6 期 雄 武 町 総 合 計 画 後 期 実 施 計 画 書

事業NO,	政策目標	2	安心感の持てる福祉のまち・雄武	保健・医療・福祉の充実	会 計 区 分	一般会計	全体計画（後期実施計画期間外の期間を有する場合のみ）
10010020	基本施策	8	子育て・子育ての充実		事業優先度	B 基本施策（後期）を実現するために行うべき事業	
	単位施策	2	地域ぐるみの子育て支援				
事 業 名	児童ふれあい交流促進事業				担 当 課	児童センター	
					関 係 課	教育振興課	
事業 期 間	令和5年度～令和9年度	事業主体	雄武町		地域福祉課		
事業 指 標	①事業数 ②参加者数				数 値 目 標	①年100回 ②年2,000人	

全 体 計 画 事 業 内 容				令和5年度 事業内容		令和6年度 事業内容		令和7年度 事業内容		令和8年度 事業内容		令和9年度 事業内容	
世代間交流事業（乳幼児・保育所児・高齢者） ・行事体験活動 ・体力増進活動				行事体験活動 体力増進活動		行事体験活動 体力増進活動		行事体験活動 体力増進活動		行事体験活動 体力増進活動		行事体験活動 体力増進活動	
年度別数値目標				①100回 ②2,000人		①100回 ②2,000人		①100回 ②2,000人		①100回 ②2,000人		①100回 ②2,000人	
		計画事業費	実績事業費	計画事業費	実績事業費	計画事業費	実績事業費	計画事業費	実績事業費	計画事業費	実績事業費	計画事業費	実績事業費
財 源 内 訳	国庫支出金	0	0										
	道支出金	0	0										
	地方債	0	0										
	その他	0	0										
	一般財源	6,000	2,326	1,200	1,188	1,200	1,138	1,200		1,200		1,200	
合 計 (千円)		6,000	2,326	1,200	1,188	1,200	1,138	1,200	0	1,200	0	1,200	0
特 定 財 源			評 価 ・ 実 績	実施内容	世代間交流事業 （乳幼児・保育所児・高齢者） ・行事体験活動 ・体力増進活動	世代間交流事業 （乳幼児・保育所児・高齢者） ・行事体験活動 ・体力増進活動							
					評価結果	A－継続／現状維持		B－継続／内容の見直し・変更					

事業名	児童ふれあい交流促進事業	評価者 管理職 職氏名	児童センター館長事務取扱	林崎 光也
		評価者 作成者 職氏名	児童センター係長	田中 健二

令和6年度実施
令和7年度評価

■事務事業の目的・内容（Plan・Do）

誰、何が（対象）	全ての児童、子育て中の親子		望ましい指標（目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標）	事業数、参加数		
抱える課題やニーズ	子ども達が安心して遊べる場所が減少している。			指標（指標計算式／解説）	目 標 値 及 び 実 績 値	
どのような状態になることを目指したのか（意図）	児童センターにおいて、健全な遊びを提供し、異年齢や地域の人々との交流を通して、社会性、自主性、創造性を養う。		①	事業数	目 標 年 度	令和6 年度
					目 標 値	100 回
					実 績 値	73 回
その結果、どのような成果を実現したいか ※成果＝目的	児童の魅力ある居場所となり、健全育成が図られる。		②	参加数	達 成 度	73.0 %
					目 標 年 度	令和6 年度
					目 標 値	2,000 人
内容（どのような手段で何を行ったか）	行事体験活動	多種多様な行事をとおして幼児から幅広い世代交流を深め、体験活動を行った。				
	体力増進活動	数多くのスポーツ指導を行い、体力増進を図った。				

■事務事業の評価（Check）

（1）事務事業の必要性（町民ニーズ、・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性）

必要	☐	義務的なもの	子ども達を取り巻く環境が変化する中、遊びの拠点となる地域の安全な居場所と交流を通じて、地域全体が子育て支援を行う環境づくりが必要である。
必要／概ね必要	☐		
課題あり	☐	一部	

（2）事務事業の有効性（期待する効果が得られたか）

概ね有効	設定した目標値の達成状況	子ども達の交流の場となっており、事業へも積極的な参加があり、地域住民の方々も子ども達との交流を楽しみにされている。
	☐ 達成	
有効／概ね有効	☒ ほぼ達成	
課題あり	☐ 下回る	

（3）事務事業の効率性（コストに見合った効果が得られたか、計画上的コストを下げる工夫をしたか）

効率的	判断の理由	事業実施に当たっては地域団体との協賛やボランティアの協力により、様々な遊びや支援を効果的に提供できた。
	☐ 事業費抑制	
	☐ 人員削減	
効率的／概ね効率的	☒ 時間短縮・作業軽減	
課題あり	☐ その他	

（4）事務事業の公平性

公平	判断の理由	全ての乳幼児、児童、中高生の利用が可能である。
	☐ 受益者負担がある	
	☐ 受益者負担がない	
公平／概ね公平	☐ 受益が一部に偏る	
／公平でない	☒ その他	

■その他特記事項（アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入）

■総合評価【A～D】

A：計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
B：ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
C：当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
D：事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
B	B	
地域の子ども達の遊びの拠点として重要な役割を果たしている。目標数値には未達となったものの、貴重な異年齢との交流の場として今後も事業を進めることが適当と判断する。	同左	

今後の展開方向 (Action)			
継続／内容の見直し・変更	継続／内容の見直し・変更		
今後も魅力ある内容のプログラムを用意し、町内の子ども達や地域の方々にセンターを利用してもらい、地域の交流の場となるよう本事業を進めていく必要があるが、児童数の減少等もあり目標の見直しが必要である。	同左		

※展開方向の区分

○継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
○終了 ○休止 ○廃止

第 6 期 雄 武 町 総 合 計 画 後 期 実 施 計 画 書

事業NO,	政策目標	2	安心感の持てる福祉のまち・雄武 保健・医療・福祉の充実		会 計 区 分	一般会計	全体計画（後期実施計画期間外の期間を有する場合のみ）
10010030	基本施策	8	子育て・子育ての充実		事業優先度	B 基本施策（後期）を実現するために行うべき事業	
	単位施策	2	地域ぐるみの子育て支援				
事 業 名	児童センター整備事業				担 当 課	児童センター	
事 業 期 間	令和5年度～令和8年度		事業主体	雄武町	関 係 課		
事 業 指 標	環境整備に係る工事実施数				数 値 目 標	各年度ごとに目標記載	

全 体 計 画 事 業 内 容				令和5年度 事業内容		令和6年度 事業内容		令和7年度 事業内容		令和8年度 事業内容		令和9年度 事業内容	
エアコン設置工事 遊戯室照明器具更新工事(LED) 児童センタートイレ改修工事				遊戯室照明器具更新工事(LED)		エアコン取付工事 事務室・静養室・児童クラブ室		エアコン取付工事 調理室		児童センタートイレ改修工事 (洋式化)			
年度別数値目標				1 工事		1 工事		1 工事		1 工事			
		計画事業費	実績事業費	計画事業費	実績事業費	計画事業費	実績事業費	計画事業費	実績事業費	計画事業費	実績事業費	計画事業費	実績事業費
財 源 内 訳	国庫支出金	0	330				330						
	道支出金	0	330				330						
	地方債	6,700	0							6,700			
	その他	674	0			674							
	一般財源	4,554	3,328	3,036	0	338	3,328	400		780			
合 計 (千円)		11,928	3,988	3,036	0	1,012	3,988	400	0	7,480	0	0	0
特 定 財 源	こども子育て交付金（国費・道費） 子ども子育て支援事業債	評 価 ・ 実 績	実施内容	遊戯室照明器具更新工事(LED) は令和 6 年度への繰越事業のため、 契約締結まで実施		遊戯室照明器具更新工事(LED) （令和 6 年度繰越事業） エアコン取付工事 事務室・静養室・児童クラブ室							
				評価結果		A－継続／現状維持							

事業名	児童センター整備事業	評価者 管理職 職氏名	児童センター館長事務取扱	林崎 光也
		評価者 作成者 職氏名	児童センター係長	田中 健二

令和6年度実施
令和7年度評価

■事務事業の目的・内容（Plan・Do）

誰、何が（対象）	児童センター利用者		望ましい指標（目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標）	環境整備に係る工事実施数				
抱える課題やニーズ	遊戯室（体育館）の照度が低く利用者の活動に支障が出ている。また各部屋の室温管理が難しく、夏季の高温により熱中症リスクが高く利用者の健康、安全確保が困難である。		指標（指標計算式／解説）	目 標 値 及 び 実 績 値				
どのような状態になることを目指したのか（意図）	児童にとって快適な環境が保たれ、安全安心な各部屋の利用ができる。		①	環境整備に係る工事実施数	目 標 年 度	令和6 年度		
					目 標 値	1 工事		
その結果、どのような成果を実現したいか※成果＝目的	安全安心な各部屋の利用ができ、児童の健全育成が図られる。				②		実 績 値	1 工事
							達 成 度	100.0 %
							目 標 年 度	令和6 年度
							目 標 値	
内容（どのような手段で何を行ったか）	遊戯室照明器具更新工事(LED)						実 績 値	
							達 成 度	#DIV/0! %
	エアコン取付工事（事務室・静養室・児童クラブ室）						環境整備に係る工事実施数	
							環境整備に係る工事実施数	

■事務事業の評価（Check）

(1) 事務事業の必要性（町民ニーズ、・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性）

必要	☐	義務的なもの	児童の安全安心な各部屋の利用の為工事は必要である。
必要／概ね必要		☐ 全部	
課題あり		☐ 一部	

(2) 事務事業の有効性（期待する効果が得られたか）

有効	設定した目標値の達成状況	安全安心な各部屋の利用ができ、児童の健全育成が図られた。
	☒ 達成	
有効／概ね有効	☐ ほぼ達成	
課題あり	☐ 下回る	

(3) 事務事業の効率性（コストに見合った効果が得られたか、計画上的コストを下げる工夫をしたか）

効率的	判断の理由	遊戯室照明の点灯時間の短縮や、室温管理の効率化により快適な環境が保たれ、児童がスムーズに活動を始めることができた。
	☐ 事業費抑制	
	☐ 人員削減	
効率的／概ね効率的	☒ 時間短縮・作業軽減	
課題あり	☐ その他	

(4) 事務事業の公平性

公平	判断の理由	児童センター利用者全体が使用する部屋の工事であることから公平性は保たれている。
	☐ 受益者負担がある	
	☒ 受益者負担がない	
公平／概ね公平	☐ 受益が一部に偏る	
公平でない	☒ その他	

■その他特記事項（アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入）

■総合評価【A～D】

A：計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
B：ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
C：当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
D：事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
A		
児童の安全安心な各部屋の利用の為工事は必要であり、計画どおりに進めることができた。		

今後の展開方向 (Action)		
継続／現状維持		
今後も利用児童にとって安全安心で、かつ、快適な利用ができるよう本事業を継続して進める必要がある。		

※展開方向の区分
○継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
○終了 ○休止 ○廃止